

高齢者施設での絵本の出張よみきかせのための研修

よみきかせボランティア藤の会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-12-3

助成事業の概要

聴き手の利用者数は、1回7～20数名、施設職員数名の立会いの下に、藤の会会員2～3名が担当する。場所は、高齢者施設のリビングや、ホール等に簡単な舞台を設けて行う。

こうしたシニアボランティアの活動を支えるのが、次に述べる会員のための2種の研修である。

(1)レベルアップ研修は、体力・能力の低下しがちなシニア会員のよみきかせ技術（発声、姿勢、本の見せ方、選書等）の維持・向上を図るもの。専門の講師の指導を受けて毎月1回継続実施し、29年度は8回実施した。

(2)拡大セミナーは、大きなテーマを決めて、優れた絵本を数冊選び、作品のより具体的なテーマや作者の意図等を読書会形式で探るもの。会員のほかに、他のよみきかせグループにも声をかけ1回10名程で、29年度は2回実施した。ただ、本研修は、会員のよみきかせ技術の向上を、直接図るものではない。

よみきかせの聴き手である高齢の利用者が、わずかでも反応や感動を示したら、それをうまく捉えて高齢者の記憶、思い、笑顔を掘り起こす手伝い出来るような感性を磨く訓練とでも言おうか。

この感性を磨くことが、読み手である会員には重要と考えられる。

事業の成果

研修の成果について、TV視聴率のように効果

測定できたと思う。毎月会員が高齢者施設に出向いて、待っていてくれる利用者がいて、職員さんの協力や手助けがあってこそ、読み聞かせ活動が実現するのである。その目的は、絵本のよみきかせによって、施設高齢者の生活の活性化を図ることである。

この目に見えない研修の効果を図るのに代えて、(2)拡大セミナー（読書会形式）の参加者がどう対応し、どんな感想を持ったかについて述べてみる。

①**1回目セミナー**（30. 2. 8実施）の対象絵本2冊

「ラッキー・ボーイ」

スーザン・ボウズ作、柳田邦男訳、評論社

「おこんじょうり」

文、さねとうあきら 挿絵、井上洋介 理論社

②**2回目セミナー**（30. 3. 5実施）の対象絵本2冊

「おじいちゃんの口笛」

ウルフ・スタルク作、アンナ・ヘルグンド絵、菱木晃子訳、ほるぷ出版

「かかし」

シド・フライシュマン文、ピーター・シス絵、小池昌代訳、ゴブリン書房

今年度の大きなテーマは、「老いの人生を語る」で、本テーマの選定は、4冊の選書とともに、講師のMCと相談して事務局で行った。セミナー参加者には、事前に対象絵本を読んできてもらった。

第1に感じたのは、老いを語る絵本の主人公は

、女性より男性（おじいさん）の方が多く、しかも思索的であるのに対して、女性の場合は、行動的なおばあさんが多いという点が面白かった。老いの人生をしみじみ語るのは、男性が向いているということだろうか。第2に「おじいさんの口笛」を取り上げると、老人ホームの老人と7歳の2人の男の子との交流の物語が、実に味わい深い。

孤独な老人とわんぱく坊主2人が、本当のおじいさんと孫ではないことを承知の上で、木登りや凧揚げや誕生パーティーを通して、交流を深めていく。互いに深く思いやり、礼儀正しく、相手を喜ばせるための知恵を尽くして、互いに豊かな時を過ごす。しかし老人に残された時間は短く、ある日静かに旅立っていく。この厳しい現実を踏まえて、少年達が人生の次のステージに立ち向かう姿は印象的である。

研修参加者の感想は、「今まで、絵本の読み方の練習はずいぶんしたが、内容について深く考えたり、感想を話し合うというよう機会はあまりなかった」「こういう読書会をぜひ又してみたい」等、前向きな感想であった。

成果の広報・公表

本研修の成果として特に公表するものはないが、毎年度末に「平成〇〇年度活動レポート」＜高齢者への絵本の出張よみきかせ＞として、20～30頁位にまとめた冊子を、150部程印刷して配布している。その中に2種の研修の報告を掲載している。

28年度活動レポートの主な配布先は、世田谷区砧総合支所・成城出張所、成城まちづくりセンター、祖師谷まちづくりセンター、世田谷区立砧図書館、世田谷区社会福祉協議会・地域社協課、祖師谷あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、東京都健康長寿医療センター研究所、世田谷トラストまちづくり、世田谷ボラン

ティア協会、りぷりんとかわさき会員、よみきかせをする場を提供して下さる地元の高齢者施設等、延20カ所に配布している。

今後の展開

会員のよみきかせボランティアに対する2種の研修事業（よみきかせ技術の研修、感性を磨く研修）のうち、30年度以降は、感性を磨くための研修の拡大セミナーに重点を置く予定。

すなわち、優れた絵本を選んで、まず内容を深く理解するように何度も読み込む。

次に、それを読むときに、高齢者が昔の記憶や思いや笑顔を取り戻す手伝いができるように努める。

読み手は、ただ絵本を読みあげて終わりというのではなく、高齢者が絵本によって昔の記憶をよびおこし、笑顔や思いを取り戻せるようサポートすることをめざす。

会員の頭より心をソフト化する方向をめざして、地域の高齢者の笑顔を求めていきたい。